

## 1. 基本理念

都市施設としての町田市のごみ処理施設では、生活・環境に影響を及ぼし、大気、水、土壌を汚染する物質を出す焼却、埋め立てを行わないことを基本とする。

大量廃棄につながる消費生活を見直し、資源・環境保全のための循環システムをつくる。

## 2. 基本理念の背景

現代の大量消費社会の生み出すごみの大量廃棄は、環境破壊のみならず、貴重な資源の枯渇にもつながり、その解決は人間社会の緊急の課題となっている。

わが町田市のごみについては、主に焼却・埋め立てにより、小山田の施設などで処理を行ってきた。しかし、近年の人口増加と、生活の大量消費化によるごみの増加により、市内の埋め立て処分場は満杯状況に来ており、市外である日ノ出町の施設にも一部頼っているのが現状である。また、焼却に伴う排気や、埋め立てに伴うガスの漏出、それらに含まれる重金属やシアンなど、さらに先頃都の調査で町田がワースト2を記録したこともあるダイオキシンの問題は、処分場のみでなく、下流域などにも健康と将来への深刻な不安を招いている。そのため、新規処分場計画のある真光寺地区では、処分場建設の反対運動を招いている。従来型の、こうした市内全域から一カ所の処分場へごみを集積するやり方は、特定地域にごみに関する不安を押しつける問題をはらんでいる。

全ての人々が納得できるごみ問題の解決には、従来の行政による発想では打ち出せなかった新たなコンセプトによるシステムづくりが必要となる。また、大量消費生活の限界を認め、新たな生活スタイル『ごみは造らない、増やさない、出さない』に向けて市民生活を変えていくことを助ける様々な施設やまちづくりが必要となる。

わが町田市において、今後の都市計画は、こうした問題に対応する方針で都市の整備をしていく必要がある。そして、廃棄物処理に関して『ごみの先進都市』と言われたかつての町田市へと、名誉挽回に向けて行かなければならない。

### 3. 具体策の提案

#### (1) 具体策の提案

- ① 焼却炉の新設を取りやめ、再資源化の施設を整備していく。
- ② 中間処理施設や、再資源化後の残査の最終処分地は、一部の地域に押しつけずに市内各地に分散させる。
- ③ 都市環境の整備のため、一括回収のためのゴミ集積場を問い直し、分別回収の徹底につなげるべく、市民一人ひとりが出し方に責任を持つような回収施設・システムに変更する。
- ④ 生ゴミの堆肥化のための施設とシステムづくりを進める。まず、公共施設（市役所、公民館、学校、公園など）で実施例を創る。

#### (2) 実施のための方策

- ① 徹底したゴミの分別回収と再利用化をはかり、ゴミとなる量を限りなくゼロに近づける。
- ② 市内を5～10地域に区切り、各地に『資源活用化施設』をつくる。そこでは、再使用・再利用できるものを徹底的に分別し、残りを再資源化処理を行う。と同時に、ゴミ処理やリサイクルにいての情報交換、コミュニケーションの場ともなるようにする。
- ③ 戸別回収、名札の付いた袋やバケツの利用など、ゴミを出す人の『顔の見える』集め方を導入する。
- ④ 団地等の家庭用コンポストの使えないところでは、共同のコンポストに集めて管理・処理を行う。（各自のマナーの徹底による、出し方などの管理が課題）

#### (3) 都市計画マスタープラン外の課題～市・基本計画等の策定に向けて～

- 上記の提案の実現のため、行政と市民の『草の根運動』を起こす。～計画から実現まで市民参加で実行～
- ゴミとなる製品の『上流』となる事業者には、包装容器・廃棄物の自己回収などの義務づけを法律化するよう、関係機関に働きかける。さらに、分別回収徹底のため、材質、特に塩化ビニルなど有害物質の製品への表示を義務づける。
- 市民として、ゴミとなるものは『買わない、出さない、再利用する』の方針で、新たな生活への転換をはかる。
- ゴミの定義を見直す。（リサイクルできれば、ゴミではない。）

参考資料：ドイツにおけるゴミ処理・リサイクル・システム

